

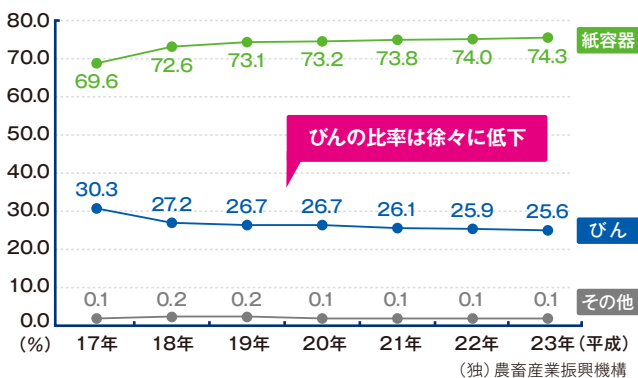
1. 学校給食のびん牛乳は、リユースの身近な教材

おいしく飲めるびん牛乳のことを、もっと子どもたちに知ってほしいと思います。また、環境省では学校給食用牛乳びんの導入支援に向けたモデル事業も始まっています。

給食用牛乳のびん使用率は減少傾向

牛乳びんは、一升びんやビールびんとともにリユースびんの代表的な存在ですが、その需要は昭和30年代に紙パックが登場して以来、年々減少しています。びん牛乳が活躍しているところと言えば、駅のミルクスタンドや銭湯・健康ランド、さらに宅配や学校牛乳と言いたいところですが、現在、学校給食にける牛乳容器の割合は、紙パックが約75%でびんが約25%となっています。

■ 学校給食用牛乳の容器別(容量)比率の推移



学校給食の牛乳は、乳業メーカーの事情や「低学年の児童は重いびんを運ぶのが大変」などの理由から、軽くて運びやすい紙パックへの移行していったようです。しかし、現在では、製びん技術の向上で、強度を維持しながら40%以上も軽量化した牛乳びんも登場しており、リデュース・リユースの視点から、紙パックからびん牛乳に再度切り換えるという事例も生まれてきています。

びん牛乳の使用率が8割を超える地域も

また、右ページの「都道府県別学校給食用牛乳の供給量とびんの割合」を見ると、都道府県によって紙パックとびんの構成比は大きく異なることがわかります。

びん牛乳の使用率が非常に高い地域もあり、びん使用率が高い(8割を超える)のは、長野県、福井県、大阪府、岡山県、山口県、香川県となっています。びんの使用率が高い地域では、紙パック牛乳と比較して安価で納入できること、びんで飲むとおいしいという意見などがあげられます。



▲ 2012 度のガラスびんリサイクル促進協議会絵画・ポスターコンクールの小学校部門最優秀作品

